様式第１号（第１０条関係）

2023年度業務実績報告書

提出日　2024年1月16日

１．職名・氏名　教授・有田広美

２．学位　　学位　博士、専門分野　看護学、授与機関　名古屋大学大学院、授与年月　2014.3

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 成人・老年看護学概論（1単位15時間　毎年開講）2年次前期、
②内容・ねらい 成人期および老年期にある人の身体・心理・社会的特徴、発達課題や生活、さらに様々な健康課題を理解し、看護に必要な知識を教授する。老年期を過ごす人々が自身の健康問題に取り組み、家族や地域社会の中でどのように生活しているのかを学ぶとともに老年期にある人々の健康、看護の基本的な考え方と実践に必要な看護を教授する。また、成人および高齢者の健康政策、社会保障の変遷を踏まえて今後の方向性を探求する。オムニバス形式。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 青年期の特徴は学生自身を振り返り、また壮年期の特徴は自分の親に聞き取りをするなどしてそれぞれの生活や健康について理解できるように進めている。受け身の授業にならないように成人看護に必要な理論についてグループで学習してプレゼンテーションを行う。また、老年看護専門看護師による実践的な特別講義を取り入れている。　【ゲストスピーカー　1人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位15時間　毎年開講）2年次後期、
②内容・ねらい 緩和ケアの概念を理解するとともに、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人と家族の心理を理解し、苦痛の緩和を考える。この授業では領域横断の科目とし、成人期および老年期における終末期の特徴と緩和ケア、小児における終末期の特徴と緩和ケア、精神疾患を持つ人の緩和ケア、在宅における緩和ケアをオムニバス形式で講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 緩和ケアにおいては2年次開講であるため、まだ生や死を身近に感じる体験が少なく、残り時間が限られた人の価値観といっても想像しがたい。そこで、実際のドキュメンタリーを視聴して、患者および家族の心理、ターミナルケアについてグループワークを通して考えさせている。また、領域横断の科目とし専門領域の教員による講義を依頼している。また、がん看護専門看護師（緩和ケア）による実践的な特別講義を取り入れている。【ゲストスピーカー　1人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 セルフケア支援論（2単位30時間　毎年開講）2年次後期
②内容・ねらい（自由記述） 慢性疾患の特徴や慢性疾患を持つ患者の健康障害を理解し、慢性的な健康障害をもって生きる人に看護を提供するための知識・技術を教授する。さらに、慢性疾患のセルフケアが上手くできずに、急性増悪した際の治療および看護についても教授する。また、社会資源の活用や患者とその家族を支える保健医療福祉制度、多職種連携と退院支援等を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 慢性疾患の病態、検査、看護の基礎知識の講義内容を、それぞれの専門領域を持つ教員、専門看護師による実践的な講義を受けることで知的関心を引き出すように努めている。 【ゲストスピーカー　1人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（1単位30時間　毎年開講）3年次前期

②内容・ねらい（自由記述）
がんを含む慢性疾患を持つ人がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。また、看護問題の解決に必要な思考プロセスを養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
　後期の成人慢性看護学実習および療養生活マネジメント実習に向けて、セッション１～2に分け、セッション１ではがん化学療法を受ける患者の事例展開、セッション２では退院支援を必要とする患者の事例展開を行う。今年度はすべて対面授業とし、看護技術演習や退院前カンファレンスのロールプレイをグループで実施することができた。少人数指導による学生の個別性に合わせたきめ細かい教育を行っている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
成人慢性看護学実習（2 単位　毎年開講）3 年後期

②内容・ねらい
慢性の病をもつ人、または健康を回復する途上にある人とその家族に対して看護が提供できる基礎能力を養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　1 週目の終わりにはﾌﾟﾗｲﾏﾘｰナースと学生とで看護計画についてのカンファレンスを開催し、実践者から直接指導を得る機会を作っている。カンファレンスでは、対象の全体像や看護上の問題、学生自身が困っていることなどの発表から、自己の課題と学生の学びが最終目標に向かうように指導している。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
成人看護発展セミナー（1 単位　毎年開講）4 年次前期

②内容・ねらい
　既習の緩和ケア論で修得した知識および基礎看護学実習・専門領域看護学実習の体験を活かしながら、緩和・ターミナル期の病状経過に応じた患者・家族の援助を考える応用編である。緩和ケアに関して関心のあるトピックスを自ら調べ、そのテーマに関する文献抄読やディスカッションを行い、緩和ケア外来および緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、緩和ケア在宅医療を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　1 施設 2 名という少人数によるセミナーである。領域実習で抱いた疑問を文献検討を通して明確にし、がん看護専門看護師が活動している場、在宅緩和医療を実践している場に出向き、フィールドワークを通して病院、外来、在宅での視点で緩和ケアを必要とする人への支援を自律的に学ぶ。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（3 単位　毎年開講）4 年次通年

②内容・ねらい
　看護実践を発展させるための看護研究のプロセスを理解し、研究態度を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　学習会や合同ゼミを取り入れながら学生が研究プロセスを理解して意図的に進められるように企画している。文献検討、研究計画書立案、質問紙調査票の作成、看護学科学生を対象に調査を実施し、分析・論文執筆など遠隔及び対面指導を行った。成人看護領域で卒業研究発表会を開催している。

①当科目名（単位数）主たる配当年次等
　看護マネジメント実習（２単位　毎年開講）4 年次前期

②内容・ねらい
　看護組織員の役割・機能、看護師への教育・キャリア支援の実際、組織における患者の安全管理システムの実際の見学を通して、また看護チームの一員としての実習することで看護サービスマネジメントの実際を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　看護部の役割、医療安全や感染対策委員会の役割などの臨床講義を依頼し、トップマネジメントを学ぶ。病棟では看護管理者およびリーダー看護師について管理者の役割を学び、さらにメンバーとして実際のケアに参加し、メンバーの役割を学び、組織の一員として看護を提供する事をマネジメントの視点で学んでいる。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等
　看護倫理学（2 単位　毎年開講）　修士課程 1 年後期

②内容・ねらい
　倫理的な意思決定を行うための基礎知識として医療・看護倫理の歴史的背景と倫理に関わる主要な概念について学習し、倫理調整を行うための方法論を修得する。さらに研究倫理ついても学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　2023 年度は不開講。

①当科目名（単位数）主たる配当年次等
　成人看護学特別研究（10 単位）　修士課程 2 年前後期

②内容・ねらい
　特論、演習で学んだ知識を活用し、さらに主体的に研究の進め方について学習し、研究者としての基礎能力を修得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　2023 年度は不開講。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等
　保健医療福祉演習　博士後期課程 1 年通年

②内容・ねらい
　少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化等が進むわが国の現状と課題を明らかにし、保健医療福祉の視点からこれらの課題を解決するための方法について講究する。オムニバス。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　後期博士課程の院生は必ずしも医療従事者ではないため、各自の研究課題や仕事として携わる領域と関連させながら緩和ケア、アドバンスケアプランニングに関する論文抄読や演習を通して各自の専門分野における緩和ケアの現状と課題について深めている。

(2)その他の教育活動

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名）　【０本】
②学術論文（査読あり） （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名　（号数）、掲載（受理）年月日） ・介護老人保健施設の看取りケアにおける介護職との連携・協働と課題、岡田恭子　有田広美共著、日本エンドオフライフケア学会誌 7(1)、2023.03 【１本】
③その他論文（査読なし）　【０本】
④学会発表等 （タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日）、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所）） １．病棟看護師が看護基礎教育で修得しておいてほしいと考える医療安全の内容－Web 調査から－、第 18 回医療の質・安全学会学術集会（2023.11.25）、藤野秀則　有田広美、 ＊２．腰椎および下肢の手術を受けた高齢患者の術後一週間の睡眠の実態－膝股関節手術と腰椎手術の比較から－、第 43 回日本看護科学学会学術集会（2023.12）、有田広美　矢島直樹　竹野ゆかり　藤本悦子 【２件】
⑤その他の公表実績 【０本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ①科学研究費助成基金基盤研究（C）継続　腰椎および下肢の手術を受けた高齢患者の術後睡眠、研究代表者　2023 年 4 月～2024 年 3 月 【学内】 戦略的課題研究推進支援　新規　看護学生の安全マネジメント力の概念整理と測定方法の開発、研究分担者　2023 年 4 月～2024 年 3 月
(3)特許等取得
(4)学会会活動等
看護ケアサイエンス学会　評議員 石川看護実践学会誌　査読委員

５．地域社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会　（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等　（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加　（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動　（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥公開講座・オープンカレッジの開講、社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） ・看護師リカレント教育講座シリーズ企画者、「臨床に活かす看護研究～県大の看護教員はどんな研究をしているの？～」、永平寺キャンパス Zoom、2023.6-7 月 ⑦その他　（名称、活動場所、活動期間） 福井循環器病院地域医療推進委員　2014.4～現在に至る

６．大学運営への参画

(1)補職
（職名、期間）
(2)委員会・チーム活動
（名称、期間） 時間割・共通科目検討協議会　2023.4～現在に至る 国際交流吉林大学　2018.4～現在に至る
(3)学内行事への参加
（行事名、参加日時）
(4)その他、自発的活動など
（活動名、活動内容、活動期間）